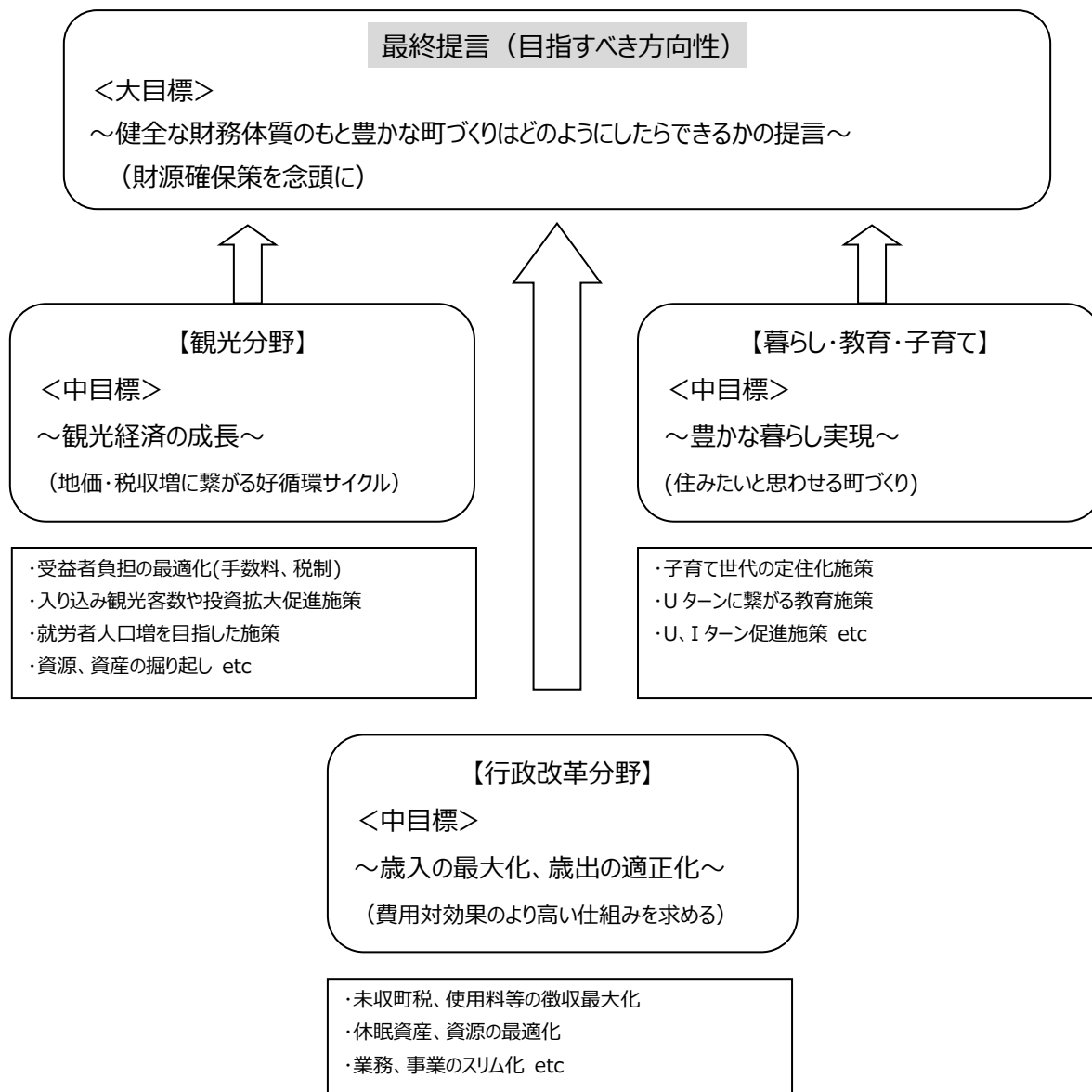


第 2 回箱根町行財政運営を考える町民会議の結果について

○町民会議の今後の取りまとめに向けたイメージ（杉山委員提案）



大目標を実現するために、各分野で中目標を設定し、さらにそれを実現するための施策を検討することで、比較的皆興味のある各論も提言に盛り込める。ただし、施策はあくまで大または中の目標達成のためのものに限ることで、議論の一定の集約を図る。（目指すべき方向性を先に定めることが極めて重要）

平成29年度第2回 箱根町行財政運営を考える町民会議 観光グループ 結果概要

日 時：平成29年6月23日（金曜日）14：45～16：00

場 所：箱根町役場本庁舎4階 第1委員会室

参加者：【箱根町行財政運営を考える町民会議】

〔委員〕

内田良雄委員、勝俣賀寿代委員、倉田義巳委員、高橋始委員、澤村吉之委員、
杉山慎吾委員、中矢氏（鈴木茂男委員代理）

〔ファシリテーター・アドバイザー〕

高井 正教授

〔町〕

石川観光課長、吉田朋正財務課長、杉本税務課長、伊藤企画課副課長

1 今後の議論の方向性（まとめ）

第1回意見交換会で提案した好循環サイクルの創出に向け、次のことに取り組む。

- ① 町の年間入込観光客数目標を上方修正し、観光客増を図る。
- ② インバウンド戦略強化により目標達成を目指す。
- ③ 2020年東京オリンピック・パラリンピック以降も継続的な成長を維持する。



『町の魅力を上げることで、町税収入増加を図る。』

2 意見交換の概要

これまでの会議と勉強会の内容を振り返った後、テーマ別で意見交換を行ったもの。

- ①各地域の祭りについて（例：強羅の祭りで他の地域に観光客を呼べるか）
 - ・宿で夕食をとると、他の地域の祭りには間に合わない。距離の問題もある。
 - ・別地域の祭りを目的に、他の地域に宿泊することはほとんどない。保養所では可能性がある。
 - ・各地域の祭りを町全体のイベントとして捉え、他の地域でも活用するべきである。
- ②観光に対する町の予算
 - ・開発するべき資源はまだあるため、更なる予算措置を行うべきである。

- ・今までは小田急のゴールデンルートが観光の中心であったが、ルート以外の強化も必要であることが、大涌谷の件を通じて分かった。

③町民が求める町がすべきことの方向性

- ・町では魅力ある施設そのものを作ることはできないが、観光客のルートを作ることはできる。金時山を例に挙げると、駐車場を地域の中心部に作り、登山道までのルートを整備することによって、周辺の店舗や観光施設が活性化される可能性がある。

④土地の路線価について

- ・固定資産税収増となるためには固定資産税路線価を上げていかななくてはならないが、個別の取引事例に左右されるものである。

⑤建物に対する減免制度等

- ・松沢前神奈川県知事が行った「インベスト神奈川」という取り組みでは、企業誘致のため不動産取得税を一定の割合で減免する等の措置がとられた。
- ・シャープの三重県亀山工場の事例では、立地に亀山を選んだのは税金関係が理由ではなく、地域資源の魅力等によるものであったとのこと。箱根は地域資源が豊富であり、資源の活用や協力体制の構築に投資と労力をかけた方が良いのではないかと。

⑥渋滞緩和

- ・湯本に大規模駐車場を整備し駐車場税を導入するとともに、パークアンドライドの取り組みを実施する。実現できれば、渋滞解消や暮らしやすさの向上に繋がる。

⑦町の目標とする年間入込観光客数 2,000 万人をどう捉えるか

- ・町の年間入込観光客数は平成3年がピークであり、現在と比較すると、修学旅行の学生やゴルフ客は大幅に減少し、元に戻ることはない。今後は、インバウンド戦略強化のため、まちづくりが変わるのではないかと。

⑧年間入込観光客数 2,200 万人を目指すとしたら

- ・日本人観光客数を伸ばすことで目指すとすると、町内の交通インフラの状況や人口減少を見据えると難しい。
- ・外国人観光客数を伸ばすことで目指すとすると、次の取り組みが必要。
 - (1) サイン表示の充実
 - (2) 受入環境の整備
 - (3) 分かり易いフリーパスの導入
 - ⇒小田急・伊豆箱根共通パスの導入について、行政から提言願いたい。
 - (4) ワンストップ窓口
 - ⇒DMO（地域と協同して観光地域づくりを行う法人）の設立。

平成29年度第2回 箱根町行財政運営を考える町民会議 暮らしグループ 結果概要

日時：平成29年6月23日（金曜日）14：45～15：50

場所：箱根町役場本庁舎4階 第2委員会室

参加者：【箱根町行財政運営を考える町民会議】

〔委員〕

安藤雅章委員、勝又 實委員、中村光章委員、勝俣昭彦委員、中里健次委員、
酒寄繁基委員、高橋典之委員、勝俣昌美委員

〔ファシリテーター・アドバイザー〕

田中啓教授、池島祥文准教授

〔傍聴者〕

鈴木美貴氏、小笠原俊彦氏

〔町〕

對木総務部長、村山企画課長、辻満、海野

1 意見交換の概要

前回のグループ別意見交換で出された暮らしに係る4つの課題に対し、現状や課題とともに改善策について意見交換したものの。

①教育関係

- ・家庭環境や交通関係により塾に行かせられない世帯が多い。学力にも差が出ているので何とかする必要がある。
- ・教育を充実できれば、若い親世代が町外に出て行かないのではないか。このため、町が費用をかけてでも良い指導者など人材を確保してはどうか。
- ・小田原市片浦小学校は外国語指導が充実しており、小規模特認校（※1）として入学を抽選とする程の人気がある。特色ある教育を考えてはどうか。
- ・横浜市等で見られる「寺子屋」のように、地域の高齢者が勉学や技術を児童に教授する環境づくりも、箱根町の特性を考慮すると良いのではないか。

※1 小規模特認校制度

…少人数ならではのきめ細かい指導や地域と連携した特色ある教育活動を行っている小規模校で子どもを学ばせたいという保護者の希望がある場合に、一定の条件のもと、市内全域から児童の入学・転校を認める制度。

②交通関係

- ・渋滞による経済的損失は大きいと思うので、それを試算し公表できれば、町民・事業者の本気の取り組みに繋がるのではないかと。
- ・第2東名やリニア中央新幹線が整備されると、箱根町は通過点となる可能性がある。また、災害時の多様なルート確保も必要なため、南箱道路だけではなく、交通インフラの整備は今後も積極的に取り組むべきである。
- ・湯本から仙石原に行く場合、国道1号線を通るルートと箱根新道から湖畔沿いに行くルートがあるが、渋滞を加味すると時間は変わらない場合があるので、小田原箱根道路に目的地までのルートや所要時間等を示唆した野立て看板を設置することで、渋滞緩和に繋がるのではないかと。
- ・湯本駅前の事業者による路上駐車が渋滞の大きな原因となっている。荷捌きの時間について制約を設けてはどうか。
- ・湯本の一部地域に大規模な駐車場を設け、パークアンドライドの取り組みを行うのはどうであろうか。

③生活（買い物、医療、福祉など）

- ・社会福祉協議会では、買い物代行ボランティアなど社会保障制度の対象になる前の方を支援する取組みを始めている。
- ・地域によっては、車の乗合で買い物等を行うような慣習もある。
- ・やはり総合病院が近くにないのが、高齢者や観光客にとっては不便である。
- ・高齢者は地域の指導者のような役割を担うことで元気なお年寄りを活かすことも必要である。
- ・買い物や病院への通院の送迎など事故した場合の補償等が怖いので、送迎時の保険代の補助などコミュニティ力への支援が必要ではないかと。

④住宅関係

- ・空き家バンクは、定住人口増加の起爆剤ともなりうる。空き家バンク制度では建物取得後の用途は限定していないが、不法民泊への対応はしっかり行わなければならない。
- ・前回意見交換会で、自然公園法により住宅建築が制限されることについて問題提起があったが、自然保護や景観維持の観点からすると、法が貢献していることも大きく、また、環境省所管で緩和することは難しいのではないかと。